

課題 11 女性の家事労働が減らない理由

—歴史から考える—

一般的に「家事は女性の仕事」だと認識されるようになったのは、産業革命・工業化が進展した20世紀以降のことだと考えられています。なぜ「家事は女性の仕事」となったのでしょうか。また、家庭用電化製品の登場・進化は、こうした女性の家事労働の負担を軽減することになるのでしょうか。参考図書を読んで、下記の点について考えてみましょう。

1. 工業化以前の社会では、男性と女性それぞれどのような家事仕事を行っていたのでしょうか？また、工業化によって導入された新しい道具は、誰のどのような家事仕事を減らすことになったのでしょうか？
2. 近代的な水道や清潔なトイレなどが誕生したことで、家庭内にどのような変化が起こったのでしょうか？（家事仕事の点を中心に考えましょう）
3. 家事労働の外注（企業化）・協同化ができなかったのはなぜだったのでしょうか？

《参考図書》

R. S. コーワン著／高橋雄造訳『お母さんは忙しくなるばかり：家事労働とテクノロジーの社会史』法政大学出版局、2010年